



令和6年11月21日

南相馬市議会議長 平田 武 様

会派名 尚友会
代表者氏名 太田 淳一

調査研究報告書

- 1 期間 令和6年11月12日（火）～令和6年11月14日（木）
- 2 参加者 ①太田 淳一 ②平田 武
③細田 廣 ④大岩 常男
⑤ ⑥
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

別紙

調査研究内容

月日	令和6年11月12日（火）～令和6年11月14日（木）
旅行先	徳島県三好市外
調査研究事項	廃校の利活用について外
〔内容〕	
○12日（15：00～16：30）三好市役所	
三好市休廃校活用事例について	
対応者：三好市役所企画財政部地方創生推進課課長 細田 博樹氏	
地方創生推進課主査 川西 純司氏	
三好市では、児童数の減少により休校となる学校が増加していた。そこで、平成24年4月から、休廃校の活用事業を推進するために専任の職員を配置し、県内外の企業を訪問し休廃校の利活用をセールスするとともに、貸付をする仕組みづくりを行った。 貸付するに当たり、「地域の中心となる学校に明かりを灯す」ことを基本概念として、①参入のハードルを下げる②市からの補助は行わない③無償貸付（修繕は入居者負担）とする方針を定め、誰が担当になっても出来る仕組みづくりを行った。また、入居企業を選定するにあたり、採算性などを市が審査するが、市が地元説明会を行いそこでの意見を基に可否判断を行っており、地元住民の判断が大きく寄与している。 入居企業について、10年を超える利用は数社ある。これまで撤退した企業もあるが、全てコロナ禍の影響で本社の意向により撤退したものであり、地元住民とのトラブルによる撤退は無い。 休廃校を貸出すメリットとして、市側としては、企業が入居することにより雇用が生まれ、集落内に新しいコミュニティが形成されることである。入居者側では、休廃校に入居しているという話題性と退去時に原状復帰をすることがないことである。また、デメリットとしては、入居している施設が老朽化した場合は契約解除となることである。 現在市内の30施設のうち13施設で民間利用がある。このうち8施設は地元での利用である。休廃校を貸出す場合、修繕は行わず現状のまま貸出している。中には耐震性の無い施設もあるが、そういった施設には、耐震性が必要のない業種が入居している。また、入居者の事情により、学校全体を借りる業者もいれば、1教室だけ利用している業者もいる。 敢えて修繕や改修を行わず、無償で現状のまま貸出すことは、市にとって費用面や雇用のメリットがあり、地元では休廃校が利活用されることにより、入居企業とのイベントなど地域の活性化に寄与するなど、市・企業・地元の3者にメリットがあることから、本市で参考とすべき事例であると考える。	

○13日(13:00～15:30) 香美市立大宮小学校多目的室

IB教育導入について

対応者：香美市立大宮小学校校長

森田 卓志氏

香美市教育振興課学校教育班対策監

田村 香江氏

まず、森田校長の案内で1～6学年の授業を見学した。

国際バカロレア(IB)は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としており、153か国以上の国と地域に約5,000校の認定校があり、国内では令和5年3月現在207校、公立のPYP(Primary Years Programme、3歳～12歳)認定校は2校ある。また、IBが目指す10の学習者像として探求する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念を持つ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りができる人を掲げている。

大宮小学校では、令和2年より国際バカロレアPYP認定校になっている。実際授業を見た中で、1年生は保育園を訪問した時の映像を見ながらの自身の振り返り。2年生では、金属製のスプーンとプラスチック製のスプーンは電気を通すことができるのかという内容で、各班に分かれて実験を行っていた。また3年生は、自分たちで物語を作り、その1場面を絵に書くという授業で、各班に分かれて絵を描いていた。6年生は、各自が考えたテーマの発表をすることから、ノートパソコンで発表内容を作成していた。6年生は従前の授業スタイル(先生が黒板の前で、児童は黒板に向かって机に向かっている)であったが、他の学年では、1年生はモニター前に座り、映像を見ながら先生がそれぞれの児童に質問する、2・3年生は4～5人の班に分かれて実験や絵を描いていたが、何より驚いたのは、大部分の生徒が、先生が聞くと積極的に自分の考えを発言するということである。

IBを導入する場合は組織で取り組む必要があり、IBコーディネーター担当の教員を配置(担任と兼任)しているが、当然負担がかかることから、教頭が補助している。また、ALTもIBの研修を受けており、IBへの書類作成(英語で行う)を担っている。その他、支援員、学校司書、IB保護者アンバサダーが協力している。

教員が新たに赴任した際、最初はIB教育に不安があるものの、1年ぐらいで理解できしており、また、赴任後1年目の教員からは「子どもたちが全然違ってきた」との声があり、さらに別の教員からは、「わからないことを分からせる」から「課題を与えて子どもたちと一緒に学んでいく」という教え方が良いという意見もあった。

本市では、国際バカロレア導入に向け調査研究しているが、実際に導入している公立小学校を視察しその効果を確認できた。

尚、詳細については提供された資料を参照いただきたい。